

ご門主「平和語り継ぐことが私たちの最大の責務」

# ヒロシマで70年法要



終戦70年の節目にあたり、広島別院と安芸教区は広島市中区・広島平和記念公園内・原爆供養塔前で7月3日、ご門主ご親修で「平和を願う法要」を営んだ。法要の後にはご門主がお言葉を述べられた(写真、全文を掲載)。また翌4日には同区・広島別院で「全戦争死没者追悼法要並びに原爆忌70年法要」がご門主ご親修で営まれた(2面に記事)。

## 戦後70年によせる平和への願い (ご門主お言葉)

ただ今、皆さまと共にお願いいたしました「平和を願う法要」にあたり、第2次世界大戦で犠牲になられたすべての方々に、衷心より追悼の意を表します。

70年前の8月6日、たった一発の爆弾によって、一瞬にして美しい広島街が破壊され、多くのかけがえのない命が失われました。また、原子爆弾のもたらした惨禍は、放射能の影響として、また痛ましい記憶として、今も多くの方々を苦しめています。

このことを思うとき、あらためて人間の愚かさ、戦争の悲惨さ、原子爆弾の非道さを感じずにはいられません。

私は、皆さまと共に、戦後70年を迎える広島に、平和への願いを新たにすることに深い意義を感じています。

第2次世界大戦が終わって70年が経とうとしています。しかし人類が経験したこともなかった世界規模での争いが起こったあと、70年という歳

月が、争いがもたらした深い悲しみや痛みを和らげることができたでしょうか。そして、私たちはそこから平和への願いと、学びをどれだけ深めることができたでしょうか。

戦争の当時を生きられた方々が少なくなっているなかで、戦争がもたらした痛みの記憶は遠いものとなり、風化し忘れられつつあります。

また先の戦争において、本願寺教団が戦争の遂行に協力したことも、決して忘れてはなりません。こうした記憶の風化に対し、平和を語り継ぐことが、戦後70年の今を生きる私たちに課せられた最大の責務です。

よりよい未来を創造するために、仏智に教え導かれる、争いの現実に向きあうことが基本でありましょう。

そもそも、あらゆる争いの根本には、自己を正当とし、反対するものを不当とする人間の自己中心的な在り方が根深くあります。

宗祖親鸞聖人は、「煩惱具足の凡夫、火宅

無常の世界は、よろづのこと、みなもつてそらごとたわごととまことあることなし」と人間世界の愚かさを鋭く指摘されています。

私たちが互いに正義を振りかざし、主張しようとも、それはいずれも煩惱に基づいた思いであり、阿弥陀如来の真実のはたらきの前では打ち崩されてゆくよりほかはないという事でありましょう。

そして、戦後70年というこの年が、異なる価値観を互いに認め合い、共存できる社会の実現のためにあることを、世界中の人びとが再認識する機会となるよう、願ってやみません。

2015(平成27)年7月3日  
浄土真宗本願寺派門主  
大谷 光淳

## 異なる価値観を認め合う社会へ

異なる価値観を認め合う社会へ

「平和を願う法要」を前に原爆死没者慰霊碑に献花されたご門主 7月3日



「平和を願う法要」を前に原爆死没者慰霊碑に献花されたご門主 7月3日